

1. 本園の教育目標

お友だち、保護者、教諭、地域の方という、子どもたちが関わる人々、そして自分自身を大切に思うキリスト教の愛の精神を保育の源泉とし、決まった型に押し込めるのではなく、一人ひとりとじっくりと接すること。また、進んで身近な人とかかわり、愛情や信頼感、自分以外の人に共感する力を持ち、社会生活における望ましい習慣や態度を身につけ、子どもたち一人ひとりが持っている発達する力を引き出す援助をねらいとする。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って、自己評価および、教諭同士が相互に評価することによって、幼稚園教諭としての資質を高める。また、子どもたちへの安全への配慮、家庭との連携も深め、コロナ禍にあっても充実した保育を確保して行く。

3. 評価項目の達成および取組状況

評価項目	取組状況
------	------

<p>教諭の資質・指導能力、および保育内容の向上を図る。</p> <p>・保育の計画性について</p>	<p>・幼稚園教育要領、キリスト教保育誌を用いて、年、学期、月、週、毎日に保育案を作成し、指導も交えつつ協議を重ね、検討→実践→報告→反省という流れを持って、今、目の前にいる子どもたちに何を提供すべきかを考えながら行った。また、日々の報告会には園長も入り、実践の報告や振り返りの時に、指導も交えながら次回の計画の更なる練り直しをし、常により良いものとなる様、目指した。</p> <p>内容としては“幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿”と、更に「知・徳・体」に区分し、才児別に年間の目標をたて、それが達成できる様に細かく、ねらい（ねがい）を定めていった。</p> <p>また、コロナ禍でも各行事（運動会や作品展、発表会等）を通して、保護者の方が子どもたちの成長を感じて頂くことが出来るように、と、行事の内容も綿密に話し合い、計画して来た。</p>
<p>・教員の研修について</p>	<p>・各教諭が大阪府私立幼稚園連盟、大阪市私立幼稚園連合会、キリスト教保育連盟、各種民間業者の行う研修に参加するよう心掛けた。コロナ禍で多くの研修会がオンライン等に置き換えた形のものにはなっているが、積極的に参加し、報告書も作成し、他の教員も回覧することにより情報、成果の共有化を図った。また、日々の振り返りの中で「今日の一コマ」として“気付き”を、写真を通してディスカッションし、互いに研鑽を積む機会を設け、日頃の保育に活かせるよう促した。</p>
<p>・外部講師による研修</p>	<p>・絵画制作および運動に関しては外部の講師を招き、子どもたちに直接指導をしていただくことに併せて、教師に向けての園内研修会も行った。また、日頃の保育の中において疑問に思ったこと、困難に感じたことに対しての専門家からの指導もいただき、子どもたちへより適切な指導をする事が出来る様、心掛けた。</p> <p>また、今年度より新たに“コーディネーション”を取り入れ、更に充実した園生活を送れる様にと、教育の充実を図った。（専門資格所有講師による直接指導で、子ども達の体幹や神経系の発達を促すもので、動きの統合性や機敏性の向上が期待出来る。）</p>
<p>・園内研修</p>	<p>・上記の、教師に向けての絵画実技指導や、体育実技指導に加え、大阪市就学前教育カリキュラムを軸とした“園内研修会”も、園長主導の下、行っている。</p> <p>また、各々が改めて日頃の保育に対する目標（ねがい）を意識しつつ保育を行う事が出来る様、日々の反省会の中で「今日の一コマ」として“気付き”を、写真を通してディスカッションし、互いに研鑽を積む機会を設け、日頃の保育に活用することが出来る様な“学び”の機会を、園内研修として引き続き設けた。次年度以降も、さらに内容を掘り下げつつ、続けていきたいと思う。</p>

<p>・子どもたちの安全への教育</p>	<p>・園バスのない当園では、徒歩もしくは自転車での送迎が主であるが、その登園・降園時の交通マナーが例年の課題となっている。近隣の方や、地域の方たちへの配慮が必要となるので、その事に関しても、子どもたちへの指導、また、保護者の方への注意喚起も行ってはいるが、今後も気を緩めず、引き続き指導・配慮を続ける必要がある。登園、降園の際の歩道の確保（長時間に渡る際、園庭や教会側敷地内への駐輪の誘導）、また、子どもの道路への飛び出しはかなり減少したと思われるが、この点も安心せず、引き続き注意喚起を行っていきたい。</p> <p>・また、防災への取り組み、ことに災害に備えた防災マニュアルの見直しをはかり、保護者の方との連携をより確実に取ることができるよう工夫し、「引き渡しカード」また、保護者以外の方が来られた際にも迅速に対応できるよう、「引き渡し可能者名簿」も作成し、有事に備える様にしている。また、一斉送信連絡も有事の際に強いと言われているアプリケーション“LINE”仕様の様式を用いる事により安心・安全に運用出来る様にし、活用している。</p> <p>・毎年、火災による消防訓練や、地震による避難訓練も行っているが、近年は大きな地震（大阪北部地震）もあり、南海トラフ地震もいつ何時起こるか判らない状況であるので、万一の際の指定避難所（上福島小学校、金蘭会中学・高等学校）等への避難訓練や、予告なしの園内訓練も、コロナが落ち着いた次年度以降に、是非行いたいと思っている。</p>
<p>・家庭との連携</p>	<p>・保育内容や子どもたちの園での様子を知っていただくために、インターネットによる会員限定の写真公開、販売を行っている。参観や公開行事では伺うことのできない普段の様子を知って頂くよい機会になっていると考えている。かつて問題のあった、一度の掲載枚数や掲載回数も見やすい様に工夫し、掲載日程の固定化も図った事で、安定して閲覧出来る様になった。</p> <p>また、今年度より日々の保育をわかりやすく写真付きのもので掲示できるシステム(コドモン)を導入し、これまで手書きの文章で日々の様子を掲示していたものを、写真付きのより分かりやすい内容にリニューアルし、保護者の方にも“保育の見える化”を図ることが出来るようになった。</p> <p>・子ども達の事や当園の活動内容等も知って頂き、地域の方々ともより良い形で連携を取れる様にとの思いで、当園が作成している“園だより”を、近隣の小学校等に向けても送付し続けている。今後も、引き続き行っていきたい。</p>

<p>・預かり保育の充実</p>	<p>・昨年同様、夏期預かり保育を行った。利用者は延べ394人であった。また通常保育時の預かり保育では平均12人、全園児の21%が利用していた。</p> <p>これらは保護者の仕事や用事がある際に利用されることはもちろんだが、子どもたち同士の交流の場ともなり、預かり保育ならではのゆったりとした時間、異年齢児との関わりの中で、様々な遊びが発展していく光景を垣間見ることが出来るものであるが、今年もコロナ禍であった為、利用自体を控えられた方もいらっしゃったと思う為、上記の様なパーセンテージとなった事も予想される。実際のニーズについては、次年度以降に測って行く必要があるかとも思われるが、次年度からは春期・冬期も預かり保育を行う事としており、一層の充実を計画している。</p>
<p>・環境設備の充実</p>	<p>・毎年の園庭樹木の剪定や消毒、ピアノ調律に加え、今夏には、各保育室床のリニューアル工事を行った。</p> <p>また、職員が、保育室をより使いやすい様、各クラスに、棚の設置も行った。</p> <p>更に、旧職員室（絵本のお部屋）の窓も、外からは中が見えにくい仕様に加工し、可愛いイラストで保健室的な要素も兼ねている部屋に、彩りを与えるのと同時に、個人情報の保護も施す事が出来た。園庭遊具では、経年劣化によるササクレが目立っていた木製遊具（ゆらゆら太鼓橋）を撤去し、その良き特徴は残す様な鉄製単体遊具(KUMO〜クモ〜)を新設した。ゆりぐみの保育室には、子ども達が様々な形で活用出来る様に...と、クネクネ形状の平均台も2台設置した。</p> <p>今後も、より良い環境の充実を、積極的に計って行きたいと思う。</p>

4. 学校評価の具体的な結果や計画の総合的な評価結果、および今後取り組むべき課題

<p>・教職員は各クラスの実態の把握、そこから、保育案の作成、実施、反省と一連の流れの中で保育を行うことが出来る様心掛けた。その中で、園児一人一人に必要な援助を、研修や園内の協議で分かち合ったことも踏まえ、実践するよう努めた。教師が定めた目標に達しないこともあったが、それを受け止め、子どもたちと共にどのように成長していくことが出来るかを考え、次に活かすことが出来る様、引き続き努力したい。</p> <p>今年もコロナ禍で様々な事柄が制限され、行事やその他様々な事について、対応やその取り組みを更に熟考する必要もあり、かなり頭を悩ませられたが、その中でも、内容を変更したり、更に工夫する事によって、子ども達の経験や育ちを阻害する事無い様にと努力を続けた。また、当園が行ったコロナ感染症拡大防止対策の措置等についても、保護者の方々にご理解して頂けるよう、文章にして説明させて頂いたり、ご質問があった場合には、個別にご説明させて頂いたりもした。保護者の方々の深いご理解・ご協力の元、お陰様で、当園に於いて、クラスター等が発生する事も一度もなく、今年度も無事終えることが出来た。</p> <p>今後も、おひとりお一人と寄り添いながら、誠心誠意の対応を続けて行きたいと思う。</p> <p>・子どもたちの安全への教育に関しては、ここ数年来の大きな課題となっている。特に降園時の交通マナーに関して、近隣の方たちから厳しいご意見をいただいていた経緯もあり、保護者の方にもご理解・ご協力を頂き、子どもたちの安全のためにも、引き続きの意識付けをしていく必要はあると思う。</p> <p>・家庭との連携に関しては、保護者の方と協力しつつ、保育、行事も少し形を変えたりしながらではあったが、行う事が出来る様に努めた。特にご協力をお願いする様な行事でも、保護者の方は子どもたちの豊かな成長のため、教師と協力し支えて下さった。</p> <p>日頃は、登園・降園の短い時間の中ではあるが、家庭での様子や園での様子を少しずつでも伝え合い、今後もわかちあうことが出来れば...と想っている。</p>
--

る。特に今年もコロナ禍であった為、常に最新の情報を得ながら、当園における最善を尽くすべく、各方面とも連携を図って来た。保護者会としての活動も、少しずつではあるが、社会見学会も園の給食試食会と共催とし、コロナ禍での保護者の皆様の想いも受け止めながら、連携を図り、開催した。また、そのような流れの中で、今年は“あいき・いきいき・フェスタ”も開催する事が出来た。ご迷惑をお掛けした事も多々あったかと思うが、役員の皆様と連携を取りつつ、様々な事柄に対してご理解・ご協力を頂け、ほとんどの行事をこなすことが出来た事は、本当に感謝であった。

・地域との連携に関しては、例年であれば金蘭会高等学校中学校との日頃の交流の結果、園児との交流会も持つ事が出来ていたが、今年度もコロナ禍の為、開催を見送る事になったが、上福島小学校の建て替え工事によるグラウンドの使用不可期間中に、今日までの様な連携を取らせていただき、良好な関係性も築く事が出来、それによって、次年度運動会の開催日の雨天時予備日のお話までも可能となった事は、非常に有難く思う。（*ただ、次年度に関しては都合が合わず、予備日は取れなかった）

また“園だより”を近隣の小学校に送付し、少しでも当園の様子や予定を伝えられるよう工夫していたが、その効果が表れ、鷺洲小学校からは学校便りも送られる様になり、コロナ前は小学校へ年長児を連れて、図書室の見学や読み聞かせ等交流させて頂く機会も持っていたが、今年もコロナ禍で叶わなかったため、コロナ終息後は更に善き交流を持てる様、これからも地域の方々と寄り添い、互いに支え合って行きたいと思う。

・預かり保育 特に夏期預かり保育に関しては、目標を達成出来ていると考えている。

更に、次年度からは、冬期・春期の預かり保育も数日間ずつ行う事となった。これからも保護者の方々の環境の変化（就労状況等）もしっかり見つめつつ、かつ、職員が研鑽を積む機会も確保しながら行っていけたら...と思う。

・設備の充実に関しては、今後も理事会と連携を図りつつ、より良いものとして行きたい。

* 次年度には園舎ヘオーニング（雨天時や日差しの強い際の日除けテント）工事及び園舎壁ヘモニメントの取り付けを行う予定。

5. 学校関係者評価

* 2023年4月27日(木) 10時30分～11時 2022年度 学校関係者評価委員会 開催

特に指摘事項等も無く、11時、無事閉会した。

6. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。